

全道展機関紙 "ZEN" No.20・1990. 4

発行所 全道美術協会 事務局 〒005 札幌市南区川沿1条6丁目6-24  
伏木田光夫 011-572-1260  
印 刷 中西印刷株式会社 011-781-7501  
編集委員 谷内 丞 手島圭三郎

# ZEN

## 全道展機関紙

NO.20

# 45回全道展作品公募

■搬入搬出期 / / 6月13日(水)・14日(木) 札幌市民ギャラリー 午前10時～午後6時  
 ■会期 / / 6月27日(水)～7月8日(日) 札幌市民ギャラリー

■主催 / / 全道美術協会・北海道新聞社

●出品を希望する方は返信用切手62円を添え、応募用紙を○六〇一九一札幌市中央区大通西三丁目北海道新聞社事業局文化事業部全道展係に請求下さい。昨年の応募者は送付します。また有名画材店頭にも置いてあります。

■巡回展開催地 美唄・奈井江・旭川・網走・中標津・根室・帶広・釧路・室蘭・鶴川・函館



### 第四十五周年記念全道展に向けて一個と集團における思索

事務局長

伏木田光夫

今年の「すばる」二月号に宇佐美承が書いた。「池袋モンバルナス」連載第十一回分。第三部 落花第一話、個と群れーが載つていた。それは、全道展の創立会員でもある小川原脩に肉迫した労作で、読んでいて胸が重いハンマーでたゝかれるようだった。内容については「すばる」を直接お読みになることをすすめる。

今、僕は小川原脩が今年の新年宴会のさわめきのなかで一個と群れーについて語ったことが、もう少し重い一生をかけて戦ったあと

一戦争は〈群〉の論理で〈個〉を圧倒するものだとわたしは考える。あなたも含めて「池袋モンバルナス」の絵かきたちはその犠牲になつた。いま日本は戦争こそしていいが原脩に肉迫した労作で、読んでいて胸が重いハンマーでたゝかれるようだった。内容については「すばる」を直接お読みになることをすすめる。

今、僕は小川原脩が今年の新年宴会のさわめきのなかで一個と群れーについて語ったことが、もう少し重い一生をかけて戦ったあと

（群）の論理が（個）の精神を圧倒しているように思えてならない、すべてのイデオロギーが説得力を失つたいま〈個〉を〈群〉に優先させる哲理がほしい。圧倒されはしたが、「池袋モンバルナス」の絵かきたちが本来もつっていた〈個〉の精神に希望をつなぎたい、あなたとそんな話がしたい。

この形で進展することが望ましく思はれる。そのためには集団が個を圧殺する保守性や権威主義を少しでも持つてはならない。全道展は繰り返して云うが、個が個であることで遭遇する内的自己の向うにある集団でありつづけなくてはいけないとと思うのだ。

さて全道展も第四十五周年記念展を迎える。気の遠くなるような戦後の個の集積のあとに今も生きつづけているのだが、ふり返ると、星雲の如く作家の一群を生み育てて来た歴史を持つに至つた。今、全道展は組織的には肥大化しつつあるが、参加する作家達が巣く個に帰ることで活性化しようとしている。

今日、重要なのは社会という〈群〉に対しても〈個〉の哲理である。小川原脩が一生かけて戦つた如く、作家は決して逃れることができない社会と個の創造のはざまにある根元で戦はなくてはいけない。全道展の作家達よ創造の自由と実存の重さは、社会と個の調和あるいは戦いのなかにしかない。出品者よ、全道展という組織の方には芸術なんかありやしない。全道展はただ鋭く個であり続ける作家達に出来得る限り、有情の集団でありつづけたいと思つてゐるだけだ。そして戦いの集積として個が集団を突き動かし、四十五回展に幾輪かの花を見ることが出来たら、なんと嬉しいことか。

に手に入れた言葉であつたと気づいて懲然とする想いである。僕はここで小川原脩論を書くわけにはいかないけれど、全道展という芸術家集団を見ている、もう一人の重い過去を背負つて来た作家の目と、僕達戦後に画家になつた一群の目の距離や同一性を感じながら、ある一点だけは集中的に浮かびあがつてくるのを感じている。その集中する視線をたどつていくと昨年逝った本田明二や橋本三郎や福井正治などの姿が見えてくるのに驚きがながら、宇佐美承の次の文章を抜き書きする。

このZENを読まれる人々は、おそらく全道展という集団の参加者がほとんどだと思はれるが、公募展など所詮お祭りだと、社会のなかの小さいピラミット構造だと云う表面的見方には賛意出来ない。個が個であることの抜き身のままの集団が望ましいのだ。公募展だけにしがみつく作家が多数輩出するなら、これは要注意である。今個は多様な行動のなかの一つとして公募展に遭遇する作家達もいるということであつて、個展やグループ展、あるいは沈黙がたえず公募展と対位す

私は今

私は今

私は今

私は今

## 絵画 加藤 健二



44回展協会賞受賞

## 工芸 岩崎 貞子



44回展道新賞受賞

## 絵画 佐々木 治



44回展道新賞受賞

少々疲れています。山ほどある引越し荷物の段ボールに閉込められながら、今夜寝る場所を強引に作らねばならないときのあの疲れです。

グラウンドというテーマで描き続け、かれこれ八年。二十代後半のグラウンドは、勤め先の窓越しの風景を色彩中心の半具象的な表現で描き、三十代前半・ヨーロッパ留学前後のグラウンドは、自分の体内風景を形と色による絵画的表現で。そして最近八年間の様々な感覚的グラウンドが渾然となって「早くどうにか形にしてくれよ!」と言わんばかりに襲いかかってきている。

制作態度が感覚的なせいか、こう一度に責められるとそれぞれの言い分を聞く気にもならず逃げ出してしまいたい気分です。

でも、それもこれも自分でまいてきた種で自分で刈り取るしかないのが絵描きの辛いところ。他人に押しつけるわけにもいかず、毎日アトリエで髪の毛をかきむしり奮闘しています。

五月末に札幌のアートギャラリー・さいとうでの企画展、七月中旬から時計台ギャラリー、釧路の宮田画廊で個展の予定。

あと数ヶ月のうちに、アトリエに蔓延している自分の身を拾い集め、新しい自分自身を作り上げることができれば、引越しの済んだ新居で一杯やるような心境になれるのですが…。

## Zen

# アトリエ風景

矢元政行

(44回展新会員・絵画)

私は、ここ五六年の間グランドや広場、アパートなどなどをテーマにして描いてきました。

この風景は、現実には実在するものでなく一人画室の中でキャンバスに向かって夢想して絵に現れた私の現代に対するイメージと思っていますが、よく見ると実は隅々までよく知っている(過去も含めて)身近な風景を描いているのだと思っていま

(3)  
す。  
今までの私の画室は、(画室と言いますがたい部屋であるが)四階建アパートの一室六畳でした。キャンバス・絵画関係の道具類の他に書棚や机・椅子・タンスなど……そしてガラクタ類が散らばり、どんなに整理しても一人がやつと動けるぐらいで狭く窮屈で、夏は通気が悪いため非常に蒸し暑い、春と秋は雨や霧による湿気とカビに悩まされ、冬は日当りが悪い上に電気ストーブだけで寒く、窓を開けるとコンクリートのアパート群にアスファルトの道路がある。のんびりゆつたり快適な場で描くというには、ほど遠い状態でした。

昨年十月やつと念願のアトリエを建てることができました。パステル調の家が続く街のはずれ、まだ雑草がおい茂っている所も多くの緑が豊かです。十六畳のアトリエは一応、天井も高くとり、それなりの広さもあり、夏すすしく冬暖かく快適で、まさに自分の理想的なアトリエを持つたわけです。絵を描くためにイメージする場とし



は、前はあまり気がつかなかつたのですがアパート住いの方がよかつたのかとつい贅沢な悩みを持つことにたりました。

今年の二月には「アトリエ開き」と称して全道展出品の絵描きが集まり、お祝いを兼ねて大いに飲みました。桜田さんのインド旅行の話、鈴木康子さん、佐久間さんの輪島さんらの画論に批評や技法的な事での話、工藤善藏さんのユニークな語りなどかなり刺激し合ひながら盛り上りました。中でも吉田誠一さん親子による津軽三味線の即興には、すばらしいの一言に尽き津軽世界にすっかり浸つてしまい夜おそくまで楽しい時を過ごさせてもらいました。

今は、あせらずのんびりゆつくり無理しないで冬眠しています。

一九八八・七・突然のアトリエ移転から、今的生活が始まったのだが、親がかりの十数年、これは大変な事件だった。正に自立して行かなければならぬからだ。兎も角追立てられる様に探したボロアパート、しかし場所が良いのだ。二十八丁目地下鉄一駅。築何年かもわからないくらい、両足を大地にしつかり下ろした良い建物である。

室内に一步足を踏み入れたとたん、この室は私の為の空間と直感したのも、つい此の間の様に覚えている。ドタバタと約一年七ヶ月、個展間近に控えての引越は、精神的にもバニックだった。(宇都宮市Gとエール企画展十月)

一番素敵な出来事が、年頃の大型プレスを入れられた事だ。とてももなく大きなプレス、小樽の鉄工所の年寄りが、この老人、寅は一原氏の山仲間らしく、仲々の頑固、と言うより一原氏と二人の策略らしく、メジャーをもつて8畳の室を計りに来たのはいいのだけど、これもまた年寄り四人(一人は老女・一人は運転手の若い者)、体重何百kgかわからない鉄の固まりを運んで来ただのだ。

その日から、私の8畳の方の室には、体重何百kgかの彼が居座つてしまつたのだ。私はその横をナナメになつて通るのだが、今になつてみれば、そのナナメがなんとも良い。

最初はプレスに押しつぶされそうに制作を進めていた私だが、今はとても仲良しに

# アトリエ風景

艾沢詳子

(44回展新会員・版画)

## 第45回 全道展巡回展日程

7月11日(水)~15日(日)	美唄展	美唄市民会館
7月17日(火)~23日(月)	奈井江展	教育委員会
7月25日(月)~31日(火)	旭川展	文化会館
8月2日(木)~9日(木)	網走展	市立美術館
8月11日(土)~14日(火)	中標津展	公民館
8月17日(金)~21日(火)	根室展	市公民館
8月23日(金)~28日(火)	帯広展	藤丸
8月30日(木)~9月4日(火)	釧路展	市民館
9月6日(木)~10日(火)	室蘭展	文化センター
9月13日(木)~16日(火)	鶴川展	社会福祉センター
9月27日(金)~10月2日(火)	函館展	丸井(今井)

## 第32回学生美術全道展

搬入 / 10月9日(火)

会期 / 10月13日(土)~17日(水)

会場 / 札幌市民ギャラリー

搬入は、札幌市民ギャラリーです。応募用紙は有名画材店又は〒060-91 札幌市中央区大通西3丁目北海道新聞社事業局文化事業部全道展係へ返信用切手62円を添えて請求下さい。

## アトリエ風景

## アトリエ風景

## アトリエ風景

なつてしまつた。最初直感した、これは私の空間と同じく、これは私の一部（手）と言つても過言ではない位、フィットして来るのだ。

時折うまく行かない時など、コノヤローとケトバスのだが、仲々彼は手強く、何喰わぬ顔。奥の六畳の室には十四年使い続けた。初代の小型プレスの彼女が鎮座すましている、彼女も仲々かわいくて、今でも時折戯れるのだが、年はとっても元気で、彼に負けてはいない。

しかしこの両方を使う私は、どんどん年を

とつて行くばかり、ふと何時まで戯れてい

られるものやらと思いながら、今の所は三

者タイトルマッチと言う具合で、二間のす

きり狭くなつた空間を、相变らず、彼と

彼女の室を、行つたり来たり、つまづきつ

つも、毎日そこに居る自分を見ている。

私はこの大好きな室に、今の所一日中しか

居られず、夜は彼等も淋しい思いをしてい

た。最近、夜な夜な、彼等と戯れるやつが

現われ、私の気がかりを、少し解消してくれている。ある時、彼等も私だけではなく、

戯むれる相手が沢山いた方が樂しそうに思

え、私一人では、くたびれるだけで、どう

あがいても勝てそうもないのだ。

昨年、十一月から、一人は仲々体格も良く、

パワフルなやつ、もう一人は今年（まだ一

回だが）、どうみてもキヤとヤ、何処にこ

のパワーがあるのか、と思う様な彼女達は、

夜びいて、彼等にタックルを挑むのだ。そ

んな朝、私がアトリエへ、何時もの様に顔

を出すと、ついさつきまでの興奮が、残響

していく、同時代に、同じアーティストとし



(彫刻) 松隈 康夫

茶十二時から一時まで昼休み、三時にお茶

六時に終わり、という工場の人達と同じサイクルで制作しています。

工場は床がコンクリートで天井が高いので、冬などは結構寒くて、制作していくも肩や腰に妙に力が入つて事にふと気付く事があり、そんな時は思わず、足の屈伸や腰の体操をします。

そんな感じなので、お茶の時間にストーブで、十坪程のものです。

札幌に帰つて来る時、それまでの作品はほとんど処分してきましたので当初は、それ程作品もなく、とても広々としていて、十人ぐらいの友人達が集まつてよく酒を飲んだりしていました。その頃よくやつたダメージゲームの無数の穴が今も壁に残っています。

ふだんも、アトリエで酒を飲んで制作します。ふだんも、アトリエで酒を飲んで制作中の作品を眺めたり、本を読んだりしていました。

こういつた時間がなんとも好きで、ひょつとしたら制作している時間より長かつたかもしれません。

どちらにしても一番落ち着く場所でフルに利用してました。

しかし近年ジワジワと、木彫の作品や、二年程前から私の制作の中心になつてゐる金属の作品などが、かなりのスペースを占領しました。

こういつたベースの問題や、金属をやるための設備の問題などもあり、最近のこのアトリエでの仕事はデッサンや紙によるワークス制作が中心となつています。

まあ、はつきり言って作品置場という感じです。

G I Z A W A · N 4 W 27 · T E L 六一三・  
一一八三





## アトリエ風景

こんな中でよく制作出来るな、と思う方もいるでしょうが、そこは不思議なもので、これらの音は手を休めて一服している時は大きくて、うるさいときもある時もあるのですが、制作している時は小さくなつて適度なBGMになつてくれるのです。

工場の一角と、色々な設備も借して頂いた上に、技術的な事など学ぶ事が多く、現在の私にとつてもありがたい事だと思っていきます。

また、生来サボリ性の私ですが、工場の人達が黙々と仕事されている中にいると、こんな私でも多少、一服の時間も減り、なかなかいい傾向だなあと思っています。近い将来、もう少し広くて、金属に限らず、色々な素材に取り組める様なアトリエを持ちたいと思っていますが、なかなか……。それまでは工場の方の好意にあまえて、制作させて頂こうと思っています。

アトリエ風景

(44回展新会員・工芸) 中秋勝広

スプーンで好物の食べものをくうが如くはねのけていたのだが、降り続く雪、一月の腰にずつりくる雪、そして、さらにおしのけていく塊りとダブルパンチ。さらには、私の制作小屋裏に容赦なく落ち続ける憎き屋根からの贈り物。二月も中を過ぎる頃になると、初めの頃の意欲もやる気もどこ吹く風である。今や、隣り近所に目立たぬ程度のごまかしの毎日となってしまった。これも例年どおり。今年もである。制作の方は、どうだろう。「初めて創った喜び」「全道展初入選の感激」その頃の自分の気持ちを持ち続いているだろうかと雪に埋もれて考えてみたい。我家の雪かき心情と同じであつては、困るのである。そではないので安心した。

三年前までは、雪が解け暖かくなると楽しみがあつた。また、その分、雪との格闘にも最後までいく分、張り合ひみたいなものがあり、雪解けを待つ事が出来た。それは家から数分歩くと、ちょっとした沢がある。そこまでのんびり散歩する事だ。まだ若い私が散歩というとずいぶんと年寄りじみた趣味だったともいえるが、それには訳があった。そこは、山菜の小さな宝庫だったから。最初は、ワラビぐらしがわか

## アトリエ風景

## アトリエ風景

## アトリエ風景

らなかつたのがそとうち、オールカラーの「摘み方から料理まで」という本を片手にぶらぶらと歩きはじめる様になつた。結構、たくさんとれたのだが。それまでは、歩くこと等、ましてや、山菜などには興味も関係の私にとってはありがたい事だと思っていました。

今年もやつぱり、いつもの年と同じ様に我家の雪かきにおわれる冬である。今年は降りはじめが例年より遅く、樂ができるのかと思っていたら、その期待も数日のものであった。最初はていねいに家の前、全部、スプーンで好物の食べものをくうが如くはねのけていたのだが、降り続く雪、一月の腰にずつりくる雪、そして、さらにおしのけていく塊りとダブルパンチ。しかし今では、家が建ち並び、その小さな宝庫もあつといいう間に消えてしまつて、その頃の面影は全く残っていない。山菜探りの樂しみが消えてしまつたとともにもう一つ頭が痛い事が出てきた。それは、音が出しにくくなつた事だ。おかげで、日に二本しかなかつたバスも今では二十数本ぐらゐあるのだろうか。また店も建つた。大方の者にとっては万万歳である。

ところが、仕事がしづらくなつたのである。それまでは、堂々と戸を開き、道路に面した小屋の中で、キーン、ガングン、グワーン、と思う存分、派手にやらかしていたのだが、最近では、やや遠慮がちになつてきた……? さすがに戸を開けたという訳には行かなくなつてしまつた。家の者にとっては、聞き慣れた音でも他人となつては、そもそも行かないと思う。防音を施すというところまで至つてないのが幸いのだが。硬くてどうにもならないと思われがちな金属も、その接し方によつては、いつも簡単に言う事を聞いてくれる事がある。そんな環境の中でも、やさしく、ソ

フトに金属にふれ合う事が出来る様になつて来た気がする。力まかせにたたけば、必ず反発し自分にはね返つてくる。おもいつきり削ろうとする手元から逃げ出し、無理におさえつけるとその振動がもろに伝つてくる。生き物ではないが、何かしら相手心もなかつたのだが、只より安いものはない。……? という大きな目的?を持ったこと等、ましてや、山菜などには興味も関係の私にとってはありがたい事だと思っていました。

今年もやつぱり、いつもの年と同じ様に我家の雪かきにおわれる冬である。今年は降りはじめが例年より遅く、樂ができるのかと思っていたら、その期待も数日のものであった。最初はていねいに家の前、全部、スプーンで好物の食べものをくうが如くはねのけていたのだが、降り続く雪、一月の腰にずつりくる雪、そして、さらにおしのけていく塊りとダブルパンチ。しかし今では、家が建ち並び、その小さな宝庫もあつといいう間に消えてしまつて、その頃の面影は全く残っていない。山菜探りの樂しみが消えてしまつたとともにもう一つ頭が痛い事が出てきた。それは、音が出しにくくなつた事だ。おかげで、日に二本しかなかつたバスも今では二十数本ぐらゐあるのだろうか。また店も建つた。大方の者にとっては万万歳である。

去年の秋、いつものグラインダーの音を聞きつけたのか、近所の御老人が仕事場をのぞきこんでいた。「いや、ますいな。」と思い顔を上げると、「すごいね。おもしろいね。」と連発。私もついいつの安心し気持ち良く受け答えすると、「どうして、そんなにまでして作るの。」と素朴な質問。その時は、なんとなく答えてしまつたが、説得力のある物の創りたい。そのための自分の感覚、感性は豊かなのか。真っ赤に溶解した金属を砂の中の型に流しこむ。自分の手の届かぬ所で形が形成されていく。そのもどかしさ。決して、それをコントロールできない訳ではないが。それでもなお砂の中から掘りおこす時の緊張感は何とも言えない。溶解温度、水分、こめ方等、少しでも怠ると、すぐにその反動がはね返り自分自身にイヤ気がさす。しかしこのものこそはと思いつつ期待をいただく。この期待感が何とも言えず大きな力となつてゐるのではないかと思う。

ああ、「また雪だ。」……春はまだ遠い

## 私のモチーフ



(絵画・会員) 北浦 晃

ば、内面あるいは内実をつみこんだものとしての表面をかかなければならぬ。これはいわゆるうわつらとは違う。

花は逆に、随分多種類のものをかいだ。

リアリズムをやつてゐるので、モチーフは人物であり、静物であり、さまざまな物である。物を見なければ何もかけない。

冬の稍に残つていたナナカマドの実が面白くて、取つてきてテーブルにおいて0号のキヤンバスにかく。いつなにをかきたくなるかわからないので、いろいろな号数や型のキヤンバスをはつて下塗りをしてある。球形の物が好きで、最大がテニスボールその他大きさや材質の違う球を、本棚の背表紙の前に沢山並べてある。最も小さいのはバチンコの球だったのが、最近は仁丹も並んでいる。勿論、仁丹までかこうとは思つていらない。

完結した球体というものは一度かいてしまえばそれだけのものだけど、それに有機的な変化の加わった果実は、かき飽きないモチーフである。葡萄もよくかくが、一番多くかくのは林檎である。林檎は「ふじ」しかかかない。うまいからよく買つてくる。いうのではない、「ふじ」という品種をかこうとしているのでもない。ここにある「この林檎」をかこうとしている。この場合、表面を丹念にかきこんでみるしかない。よく「この絵は物の表面しかかけていない」という評言をきくが、物の表面なんてそう簡単にかけるものではない。表面がちゃんととかけられ、内面だってかける。逆にいえ

## 私のモチーフ



(彫刻・会員) 中江 紀洋

「融化する形態」を搜す。彫刻部  
私のモチーフは融化である。

森羅万象の融化である。

現代的で、アブレで、少々大様のよう見えるモチーフに対する気持ちだが、根は

「美しい瞬間」は融化だと信じているからである。

この「融化」と云う主題は十五年前北海道に帰つて来てから、はつきり目標として

きて来た主題であり、この生まれ育つた道東の自然から触発されたものである。

この周辺には、まだまだテクノストレスをおこしていな緑（森林）が沢山あるの

で、車で十分も走ると無垢の自然に触れることが出来る。

自然と云うものは素晴らしいもので、触れるたびに新しい発見があり、感動があり、想像が生れる。（大都會ではこうはいかない）

この体験を静かに壊さない様にアトリエに持ち帰り、創造に発展させる作業が、私

の融化する形態の始まりである。

自然の中では、あらゆる融化が行われて

いる。たとえば昆虫の融化であり、植物、

動物、全ての生物の融化である。

融化とは、とげ合うことがあるから、こ

こ数年は生きものに限らず、道東に点在す

るかつての入植者の廃屋と自然との融化に

心を動かされ、モチーフとして來た。

宿世（前世）も、生も死も、又復活も全て私は融化であり、感動の瞬間である。

## 私のモチーフ



つきりしない取り留めのない印象であるが、作品もその通りで、まだまだ不明確な、靄のかかったものばかりである。

屁理屈だが事実だからしようがない。

まあ天才ではないから、融化の瞬間を立

体にするには、苦労もあるし、時間もかかる、

脚路に住んでいると素材と表現に対する多様性が希薄になると云うマイナスの面もあり、又自然の強さに引かれて創造性が広がらなくなる事があるので、モチーフの中には、しつかりと視座を置き、世間に照射し続けたいものである。

素材と表現の多様性が、固定化した時、自身の融化が始まり、形態の見えた日を迎えることになるのかも知れない。

## 私のモチーフ・・・・



(版画会員) 越谷 賢一

スイッチ・オン(ON)のシリーズを始め、'83年以来、現代社会の基本的な行為を示す文字や記号を通して、映像と行為との関係を反省的にとらえることをテーマにしています。

スイッチ・オン(ON)が、機械文明の今 日、日常最も頻繁に繰り返される行為であるように、車社会にあっては道路標識が、歩行者のいかんをとわず、見落したり見誤りたりすると命にかかわる事もあるものとして、また刻々と変る進路を指し示す記号として、一時も忘れる事のできない存在になっています。その意味で、道路標識は單なる記号ではなく、現代社会の基本的な行為を端的に示す記号存在だと言えるでしょう。

モチーフに入れる映像の取材には、カメラをもつてあちこち車で行き、どこにでもよくあるような風景を白黒フィルムに写して来て、暗室で記号の型に筆現象しながら意図に合ったものができるまで数十枚現象をつづけます。

筆現象ですので、同じ風景を同じ記号に入れても、一枚一枚風景の入り具合が違い、記号の外形も太くなったり細くなったりしながら変ってきます。それをリスフィルムに焼き直し、写真製版してシルクスクリー

## 私のモチーフ・・・・



ンで金属のアルミ板に刷ります。その後大きな作品は、何枚かを組にしてパネルになります。

走る車の中からでは、細部まではつきりとは見えないでしようから、筆跡を入れる風景は、どれもピントをばかしてあります。

デッサンを重ねたものは、進むべき方向と現実に進んでいる方向とのズレや、記号そのものの正否などを表わせればと思っています。紙と墨という素材で展開されきた東洋の伝統的表現を、筆跡に映像を入れ金属性板に刷ることで、現代の表現に生かせねばと思っています。

現在とりくんでいるのは、渋谷区立松涛美術館でこの8月から9月にかけて企画される「現代の版画1990」への出品作です。この展覧会は、全国の版画家を対象に、京都国立近代美術館長や国際美術館長、筑波大学教授、美術評論家など6人が選定委員になり、20名が選ばれて出品するものです。与えられた4mの壁面をどう生かしていく模索がつづく毎日です。

冬の風景を水彩で一点描いてきた所、「ZEN」より原稿のお願いと言ふことです。昨日は二階の玄関アトリエより外に出て描く、現在居る近辺をすこし描こうと思ふ雪のあるゴミゴミした変化をねらっていた所です。

冬の雪の中で描く風景は陽が暖かいようでも体に寒さを感じる。「——又、夜中子供の寝た顔をビールを飲みながらデッサンをしてみる。おいしそうな果実があれば静物を描き、バス停の前の花屋で色々とりどりの花を買い、花の静物を描く、魚や、野菜も、食べる前に特に生魚は早く描き、栗の実などは遅くてもいいだろ、私は何でも描くが、——」

これらのモチーフは気の向くままに描き、際立つてデフォルメさせて物を捕えると言う事をあまりしない。自然の中には自分の考えられないフォルムがあり自分に逆らつた線と色彩が無限にある。

私は「想像の海」をテーマに多くの作品を作りしつづけているが、人間の一人一人から受けける印象を、全く自然に別のフォルムで置き変えてモチーフするものであ

## 私のモチーフ・・・・



(絵画会員) 高橋 要

冬の風景を水彩で一点描いてきた所、「ZEN」より原稿のお願いと言ふことです。昨日は二階の玄関アトリエより外に出て描く、現在居る近辺をすこし描こうと思ふ雪のあるゴミゴミした変化をねらっていた所です。

冬の雪の中で描く風景は陽が暖かいようでも体に寒さを感じる。「——又、夜中子供の寝た顔をビールを飲みながらデッサンをしてみる。おいしそうな果実があれば静物を描き、バス停の前の花屋で色々とりどりの花を買い、花の静物を描く、魚や、野菜も、食べる前に特に生魚は早く描き、栗の実などは遅くてもいいだろ、私は何でも描くが、——」

これらのモチーフは気の向くままに描き、際立つてデフォルメさせて物を捕えると言う事をあまりしない。自然の中には自分の考えられないフォルムがあり自分に逆らつた線と色彩が無限にある。

私は「想像の海」をテーマに多くの作品を作りしつづけているが、人間の一人一人から受けける印象を、全く自然に別のフォルムで置き変えてモチーフするものであ

あるが、人間が生活している中で、感性に訴えるもの、心にある感情とか、見ることの出来ない世界、恐怖、喜び、楽しさ、孤独、希望、心配、エロス、私の表現は何段構えかのモチーフを必要としている。特にここ五六年、四角の画面から、画面でない空間の一部も表現構成として使用、画面の形をいかにモチーフを生命づけるかに動いてきた。特有なモチーフだけが強い説得を持つものとは考えていないが、自分にしか出来ないモチーフを生み出そうとしていることは確かである。感動し、目で見、感じて始めて接するものが多ければ多いほど、確かな表現の下地となり自分独自の説得をより深く考えられると思うのである。制作と同時にそのモチーフがいつも、体内から沸き出でて一致するなら、実に楽しいのではないかと思われるが……、私の想像の海はいかに説得するかで、モチーフ達は画面の上で葛藤を続ける。モチーフ達が自由に表現され私と一致するなら、自分の本音の「私のモチーフ」となるだろう。私は私の創造した、モチーフで人間社会を追求して行く。

原稿は書き終えた。外はまだ明るい雪の風景を今一度水彩で描いてこよう。ストーブの火は今程、消したから……。

静物などからも同じ表現を試みることも

## 私のモチーフ

## 私のモチーフ

## 私のモチーフ

## 私のモチーフ



（会友・彫刻）  
池田 謙



（44回展奨励賞  
受賞・工芸）  
三好 美和子



（44回展佳作賞  
受賞・絵画）  
三上 博子



（44回展奨励賞  
受賞・絵画）  
川口 浩

## ZEN

No.20. 1990. 4

工場の片隅に積み重ねられた重さ数トンの御影石の原石に、しばし茫然とすることがある。何の加工もされない石材のもつ量の感動は、そのものの感情がむき出しになっている。

桃の実は高くて瑞氣があつて  
いくらか淫靡でやや放縱で  
手に持つていると身動きをする。  
のりうつられそうな気はいがする。

高村光太郎のこの詩に、私が石という素材感情を通して触手する全ての思いが込められている。自然の内部にある抽象的生命を見いだす。幾度も触手することで、確かにものに造型したいと思う。

しかし、織を通して自分が大きくなり、自分の成長が大きな仕事をさせる。織によつて魅力ある人間になりたいと、今日の自分に満足せず、謙虚に織を学びいづまでも童心を失わず、そして気が若く未 知を求めて歩きたい。自分に納得出来る生涯を賭けた織への道があれば、歩くことを途中でやめたりはない。

小さな私の一步を一日一日、着実に固めたい。この道よりわれを生かす道なし、遠い道だが、また素晴らしい出会いがありますよう

す。せめて絵だけはゆつたりと、我が儘にゆきたいものと思うのです。しかしそれが儘にありたい絵の、何より盡ならぬことでしょう。

手織と出会つてはや二十年、それ以来手織の暖かさと落ち着いた雰囲気を伝えたく、何にでも興味を持ち、素材にこだわり、絹糸と緯糸の世界から生れる織の立体感を、平織を原点として自己主張してみたいと頑張つて来ました。

織の立体化、頭の中での造形美をどう織で、表現すればよいか夢と現実の狭間で苦悶しています。

しかし、織を通して自分が大きくなり、自分の成長が大きな仕事をさせる。

織によつて魅力ある人間になりたいと、今日の自分に満足せず、謙虚に織を学びいづまでも童心を失わず、そして気が若く未 知を求めて歩きたい。

自分に納得出来る生涯を賭けた織への道があれば、歩くことを途中でやめたりはない。

小さな私の一步を一日一日、着実に固めたい。

この道よりわれを生かす道なし、遠い道

今一番多く画面に現われてくるのは、静物です。

卓上に、林のようにびんやつぼたちが置かれています。その形はさまざまです。その置き方はまるで無秩序です。美しいと思ふ形、描きたい形のびんやつぼ、水差しなどが、いつのまにかこの卓上に集つて来てくれたような。

それらは卓上に在つて各々他と関係し合ひ、美しい全体を創り上げているようにみえます。隣り合うもののつくり出す空間が又美しくて、実は視っている時間が長くなつてしまふのです。

或る時、一本のびんを持ち上げてみると、物と物の関係が動き出し、同時に空間がありようも変化してゆきます。気が済むまで動かし続けている内に、或秩序をもつて並べている自分に気付きます。その時から、はつきりと意識して物と物の関係、実体と空間の関係について考えてみます。

今一番多く画面に現われてくるのは静物です。しかし、私が心動かされるものは数多くあつて、それらが又、いろいろに交錯するので厄介です。

世の中や身辺が様々な騒音で揺れていま

す。せめて絵だけはゆつたりと、我が儘にゆきたいものと思うのです。しかしそれが儘にありたい絵の、何より盡ならぬこと

私はモチーフは、当然なことです、いつも私的なものばかりです。それは家の前に立つてある木々の断片であつたり、身近な人間達であつたり、以前暮らしていた所の空や海や川であつたり、まったく個人的な心情、心象から派生する事々であつたりです。

卓上に、林のようにびんやつぼたちが置かれています。その形はさまざまです。その置き方はまるで無秩序です。美しいと思ふ形、描きたい形のびんやつぼ、水差しなどが、いつのまにかこの卓上に集つて来てくれたような。

それらは卓上に在つて各々他と関係し合ひ、美しい全体を創り上げているようにみえます。隣り合うもののつくり出す空間が又美しくて、実は視っている時間が長くなつてしまふのです。

対象には、いつも謙虚でありたいと思つていて、傲慢になつてはいけない。そこから見えてくるものを自分の内で咀嚼して、より本質的な部分で近付けたらと考えています。

決して傲慢になつてはいけない。そこから見えてくるものを自分の内で咀嚼して、より本質的な部分で近付けたらと考えています。そうでなければもう一つ高い段階のものに昇化出来得ないのは……なども思っています。そこらにあるものの羅列であつてはならないし、画面構成上の無意味なものであつてはならないはずです。

しかし、現実は、個々のモチーフと作品それ自体との関係が希薄であつたり、それ由、内容の伴わない不自然な作品が出来上つたりと、反省させられる毎日です。

より自然でありたいし、より低いところから物事をしっかりと見すえていたい。そのためには、自分をどのよな環境の中に位置させておくべきかと考えている昨今です。

## 私のモチーフ

彫刻を始めたのはいつからか、大学三年の時、初めて鉄の作品を発表したのだから、二十才だからして、かれこれ十年になる。など考えていたら、ZENから『私のモチーフ』という事で書いてくれといわれてとまどつてしましました。自分自身十年間を振り返つてみて、作品のモチーフに、あまり一貫性が感じられないからです。だいたい自分で制作してきた過程を分析するなんて赤面してしまいます。はづかしいけれど、僕の造り方の手の内をばらすと、これしか出来ないせいもあつてか。今までの作品はほとんどが鉄を使つたものです。作業場に散らかしてある鉄片や切り落したあとの鉄材を、積んでみたり、並べてみたり、積み木ならぬ積み鉄をしていると、「人間の形」や、「動物の形」に見えてくるのです。

そんな事をしていると作品のタイトルが浮かんできて、さらにそのタイトルに説得力が増すように色々な要素を組み入れていく、

という進め方で、特にモチーフを決めてそれをどう表現しようかなどと考えた事はありません。あえていうなら、鉄という素材 자체が僕のモチーフであり、それから鉄と遊んでいるうちに作品らしくなつていく(ならない場合も多い)という事のよう

うです。



(44回展奨励賞  
受賞・彫刻)  
橋井 裕



(44回展奨励賞  
受賞・絵画)  
デュボワ 康子



(44回展佳作賞  
受賞・版画)  
高田 京子

## 私のモチーフ

## 私のモチーフ

彫刻を始めたのはいつからか、大学三年の時、初めて鉄の作品を発表したのだから、二十才だからして、かれこれ十年になる。など考えていたら、ZENから『私のモチーフ』という事で書いてくれといわれてとまどつてしましました。自分自身十年間を振り返つてみて、作品のモチーフに、あまり一貫性が感じられないからです。だいたい自分で制作してきた過程を分析するなんて

赤面してしまいます。はづかしいけれど、僕の造り方の手の内をばらすと、これしか出来ないせいもあつてか。今までの作品はほとんどが鉄を使つたものです。作業場に散らかしてある鉄片や切り落したあとの鉄材を、積んでみたり、並べてみたり、積み木ならぬ積み鉄をしていると、「人間の形」や、「動物の形」に見えてくるのです。

デンマークのチボリ公園や、クンスト美術館の庭で休息している人々は、私の眼を、鼻を描きたい気持へと誘つた。マネの「草上の食事」が、スラーの「グランドジャッダの日曜日」がここにある。このすばらしい冬の星々。

私は空の向うの計り知れない不思議と美しさを、海面を境に海の中にも感じるので

昨年5月に、札幌の郊外へ引越しました。ススキノのネオンの代りに、空に満天の星を毎日見飽きる事もなく眺めています。帰

り道の、よいの明星探し。秋の空に残つている天の川と白鳥座。宝石のようにキラキラ輝く冬の星々。

昨年8月、ボイジャー2号が海王星に接近し、その後太陽系を離れていましたが、それとは対称に海の中への探検はそれ程、解明されいない様に思います。私に

とって、深い海に棲む生物達は、遠い星と同じに想像をかきたてられられるモチーフといえます。私の宇宙を泳ぐ為に、固いうろこや鋭いトゲを持つ深海魚達は人知れず深い海の底にいる仲間達の夢を叶えるかの様に自由に、海の中とも空の上ともつかない空間を飛び回ります。

人間がいつか地球以外に住み始める時代になつても、深い海の住人が今と変わらない環境で、夢を見ながら暮らしていくほしいのです。

### 第45回展画集掲載の広告を募集します

サイズと料金は下記の通りです。札幌に限ることなく巡回展開催地もよろしくご協力ください。

①全ページ	220mm×210mm	¥30,000
②½ページ	220mm×100mm	¥20,000
③¼ページ	105mm×100mm	¥12,000

○料金の請求先を原稿といっしょにお送り下さい。

6月1日㈮必着

○広告原稿の送り先 〒069 江別市大麻高町12-20  
手島圭三郎・宛  
TEL (011) 386-4165

### 第45回 全道展表彰式・懇親パーティー

日時 6月30日(土) 後6時

会場 三越デパート10F 大食堂

会費 4,500円

出品者は入落にかかるわざご出席ください。ご家族、知人、友人の参加も歓迎します。

地区だより

地区だより

地区だより

**根を下した巡回展**

旭川地区

神田 一明

**有意義だった講評・講演会**

釧路地区

齊藤 一明

「一度くらいの女の人もいるんではないかい？」  
どなたかの発言。まさか！ 今流行のマドンナ旋風の煽りでもあるまいし……。それに他のにもマドンナは沢山いらっしゃるのに。  
でも至りませんがよろしくお願ひ致します。  
まず報告事項、永い間搬入でお世話をになっていた加藤運送店さんが廃業の為、新しく東京マルイ美術運送店さんにお願いすることになりました。時代の流れを感じます。

旭川地区的巡回展の会場は、一昨年まで西武デパートでやっていたのを昨年から文化会館に変えました。会場の狭さが理由ですが、場所は街の中心からはずれているので入場者が激減するのではないかと心配されましたが、フタを開けてみると意外に会場は活況を呈し、ほつとしました。

今回は旭川地区から会友賞、奨励賞と、二名の受賞者が選出したことや、三名の初入選者を含めた二〇数名の入選者と、地元出品者の多いこと、それから巡回展を長年継続しているため全道展が市民に浸透していることなどが原因だと思います。

運営費の足しにと始めた会員会友による小品コーナーもなかなかの売れ行きで運営の一助となっています。

地区的出品者は皆お互いに忙しく普段めったに会う機会もないのですが、年一度の巡回展には皆張り切って集ります。会期中は批評会を含め乍ら活発な意見交換がなされました。会場の受け付けも一年までアルバイトを使つていましたが、昨年は出品者が交代で勤め、文字通りの手造りの展覧会と云う感じになり、なかなか良い今年も全道展には旭川地区からも優れた作品が沢山出品されることを念じています。

一月二十七日一

昨年の暖冬がうその様に、今年の道東の冬はシバレも一段と厳しいものでした。反面、この寒さが春を待つ心をひきた、せ、迎える春の喜びを深くさせてくれるものなのでしょう。

そんな一月のある日、釧路地区としては、初めての新年会が持たれました。出席者二十数名ほど。酔うほどに作品論にも熱が入り、やがて二次会へと、楽しいひとときでした。

同じ市内や近郊にいながら、一同に顔を合せる機会がないだけに、有意義なこころみでした。

さて、昨年の巡回展は例年の通り、釧路市公民館で八月三十一日から九月五日の日程で催されました。地元作品十七点を加えた一〇〇点。入場者は前年よりやや減じたものの、ほぼ例年並の一、二〇〇。

恒例の作品講評会には、遠路、札幌より伏木田光夫氏を招いて行なわれました。活発な質問も交され、せまい会場は熱気満ちたものになりました。

そして、これも初めての事となつた美術講演会が、引き続いて行なわれました。

「現代美術の源流と空間」。伏木田氏の巧みな話しに、出席者は引き込まれる様に聴き入っていました。

制作についての根元的なテーマでもあり、

釧路巡回展会場風景



**故郷の話に花が咲き**

東京地区

小川 洋子

東京支部連絡係：十五年間渡辺真利氏。  
同一間藤島清士氏。（御家庭の御事情で  
惜しくもおやめになる）。次は二年間とい  
うことなりました。

全道展のことなど、故郷の話に花が咲きました。すすめの学校よろしく、押しかまんぢゅうで並んで写真を写したり楽しく一時を過したのですが、どおしたことが写真は写つていてなく、「それも仕方ないしょ」。気楽にやろうと思いつながらも、第四十五回全道展にむかってこれから本部の方々はさぞお忙しくお疲れのこと、思いつつ、盛会であります様折りながら筆をとりました。



## 巡回展と帯広地区

帯広地区

岡沼秀雄

第25回記念展から定例化した地方巡回展は昨年で20回を数えるが、帯広地区でそのうち17回を開催して今では地元に定着できたと思っている。最初の帯広展開催に努力したメンバーの大半は入れ替り、気が付くと僕の他には絵画の渡辺禎祥さんと斎藤隆博さんが残るだけで少し淋しくもある。

この間、全道展への出品者数は増減の波にまされて、多い年では20名に近かったのが昨年はついに12名にまで減少した。17回も巡回展を開き、全道展を理解してもらったつもりでいたのに、私たち出品者の頼りなさが反映してるのだろうか。今がちょうど「どん底」かも知れないが特に絵画の出品者が少なく、彫刻と版画では一般出品がゼロという情況で心細い。一人、気を吐くのが工芸(陶芸)部門である。それでも、昨年は初入選の近藤みどりさん(絵画)は学生時代からの夢を果たして今年も元気が良く、だらけている私たちをその馬力で押上げてくれそうだし、同じ初入選の谷本杉雄さん(陶芸)は清水町の日勝峠入口あたりで眼光鋭く窯の炎を睨んでいる。だから、その

地区だより

地区だより

地区だより

地区だより

## フランメンコの登場で盛り上った '90全道展新年会

●'90年1月 日 ●札幌グランドホテル

「素的な景品当つちやつた。」と開宴前

の各テーブルのささやきを聞くうちに、今年も札幌グランドホテル銀扇の間に百十五名で'90全道美術協会新年恒例会が開催された。旭川、伊達、室蘭、苫小牧、登別、静内等、遠くから、大雪をかきわけ、かきわけ集つてくれた多数のみなさん、本当にご苦

労さんでした。

まず、事務局長伏木田光夫氏から年頭の辞、45周年記念展への抱負等開会の挨拶。二十八名の来賓を代表して、北海道近代美術館副館長近間郁雄さんからご挨拶をいただき、北海道新聞社事業局長水上武夫さんの乾杯のご発声で開宴。次々と出される料理は満足度を高め、グラスを傾ける程に女

数は少ないが、生き残った帯広地区的メンバー一同はこの十勝野で豊かな実りを手にする日を信じて耕やし続けるだろうと思える。巡回展はそのエネルギー源の役割を努めているのかも知れない。

平成三年度には道立帯広美術館が完成するようだ。しかし、その場所で巡回展を持つことはできそうないと聞く。まだまだ巡回展を開くごとに、入場者数(売上金)を気にしながら続けることになるのだろう。

初めて聞く人も多く拍手大。昨年はシャンソンで絶好評。今宵は小角典子のフランメンコを目と当たりにすることが出来たのは一つの贅沢でもあつたろうか。エネルギーで軽快、かつ妖しく華麗な宴を中心まで楽しめたと思う。

二時間の宴は短かく、出会い、感動、抱負等々。余韻を残しつつ宮田久さんの乾杯でお開きとなつた。雪の降るスキノに足を運べば、ネオンがやたら眩しかつた。

企画部

## 45周年記念

講演と映画の夕べ(入場無料)

●場所 札幌市教育文化会館

札幌市北1条西13丁目

●日時 6月29日(金)昼2:30~5:00

夜6:00~8:30

性参會者のはずむ声が交差。

大地會員の手際よい司会で全道展らしい雰囲気が作られていく。小川原国松、砂田会員、荒巻札幌時計台ギャラリー社長等から、心に響くテーブルスピーチ。菊地又男(新道展)さんの情熱あふれる弁舌は、

初めて聞く人も多く拍手大。

昨年はシャンソンで絶好評。

今宵は小角

典子のフランメンコを目と当たりにすること

が出来たのは一つの贅沢でもあつたろうか。

エネルギーで軽快、かつ妖しく華麗な

宴を中心まで楽しめたと思う。

二時間の宴は短かく、出会い、感動、抱負等々。余韻を残しつつ宮田久さんの乾杯でお開きとなつた。雪の降るスキノに足を運べば、ネオンがやたら眩しかつた。

私は今45回展にむけて

私は今45回展にむけて

私は今45回展にむけて

私は今45回展にむけて

## 自分を見つめよう

にむけて準備をしています。一月に行つた  
ミクロネシアが絵にならなく悩んでいます。

絵画（札幌） 池田正之助

毎年のことながら何とかしなければと  
考るが、なかなか独自のものがだせない  
地味でも素直になればよいかなとも思う。  
45回展が終れば50回展はすぐだ。自分をみ  
つめよう。

## 元気のよい展覧会に

絵画（鶴川） 福井 パク

最近本当にむらつく 国画会が国展に  
ゆり やっぱり 全道展は  
本当にすごい展覧会だ。これからも元気  
よい展覧会にしたいものだ  
俺のおやじも天国にハッキリいる。

全道展 万歳

版画（江別） 手島圭三郎

冬が好き 冬は人を家の中に閉じ込めるはたらきを  
します。そのせいか仕事が一番はかかる季  
節としてスケジュールを組みます。一二三  
月で絵本の原画一冊分版画で彫り上げます。  
一日中画室に閉じ込もつて仕事をする春が  
來たときは仕事が完成している。そんな  
冬の毎日が大好きです。

## コウライキジが庭にやつてきて

絵画（恵庭） 三ミス

この冬も、コウライキジが庭にやつてき  
ました。スケッチには絶好の対象物です。  
そして木枠にキャンバスを張り、45回展

私は今45回展にむけて

真白いキャンバスにファインプレーを  
絵画（札幌） 大地 康雄

真に表現したいものを描ければと思う。  
自分なりの作品を

初心忘れず 版画（札幌） 渡会 純介

初心忘れずの全道展でありたいですね。  
難題山積みしている今日であればこそ――。

## アートの構造体を発信

絵画（江別） 林田 嶺一

私は1980年代に入つて関西で起き  
ていた運動に参加してきましたがその思考  
であるニューペインティングと「モノ」派と  
装飾との折衷思考の連中と約10年間構造と  
絵画を平面アートとして宣言し同時に行動  
にうつしてきました。それは平面と立体に  
よる多儀的なメデアの折衷思考で、その融  
合体はある場所性と日常化を疑似化し非日  
常化した平面アートであり、無国籍なアーティ  
ストの構造体を全道展から他の地に発信づ  
けます。

## 感動する絵を見たい

絵画（旭川） 高橋 要

会場の中でギリギリまで格闘している作

品を一点でも多く見たい。興奮してくる作  
品を見たい。感動してくる作品を見たい。  
何か深く深く考えさせられる作品を見たい  
感心させられる作品を見たい。明るい希望  
がもてる作品を見たい。

## 自分との対決の日々

絵画（札幌） 渡部 重夫

雪の多い年と言われたこの冬も如月の暖  
かさで積雪の嵩が眼に見えて減つてゆく。

自分の心の中で燃焼している得体のしれな  
いものが、画布に定着しそうで仲々思うよ

うにはならない。孤独のなかで大いなるも  
のに立ち向うという行為を自分自身への試

練と課して対決している毎日である。どの  
ようにも焦慮しても健康であることの大切さ  
が痛切に感じられる昨今、自分のベースで

## 大きな木と格闘

彫刻（小樽） 二部 黎

切り倒した大きな木を、元の形にもどし  
てみる。大きな木は大きな形を求めている。

大きな形をつくろうと思う。切り倒した行  
為は罪深く、淨められることはないけれど

冬の海、錢函の工房にて。

が、小樽市展、同美術協会展、国画会道作家  
家展、さつばろくろゆり会展と発表の場が  
ある事に感謝しています。手稲向静学園園  
生展も昨年につけ開催予定です。

なかなか個展開催ができないであります  
が、会期には努めて会員をつかまえて(?)  
作品の批評を乞う事にしています。酷評ば  
っかり。「粗っぽさ絶大」「量は質に変化  
する」「時間かけて」等々でこれではな  
らじと心機一転、個展など観て歩いて絵を  
盗むよう心がけなどしているのですけど、  
生来の怠け者と下手糞はどうにもならず、  
恐怖の搬入日近くなるともう自己嫌悪の毎  
日。いやらしい絵に徹底したいと思うけど  
これがさっぱりどうも。

絵画（札幌） 岡田 義巳

会期には努めて会員をつかまえて(?)  
作品の批評を乞う事にしています。酷評ば  
っかり。「粗っぽさ絶大」「量は質に変化  
する」「時間かけて」等々でこれではな  
らじと心機一転、個展など観て歩いて絵を  
盗むよう心がけなどしているのですけど、  
生来の怠け者と下手糞はどうにもならず、  
恐怖の搬入日近くなるともう自己嫌悪の毎  
日。いやらしい絵に徹底したいと思うけど  
これがさっぱりどうも。

絵画（札幌） 山下 優馬

会期には努めて会員をつかまえて(?)  
作品の批評を乞う事にしています。酷評ば  
っかり。「粗っぽさ絶大」「量は質に変化  
する」「時間かけて」等々でこれではな  
らじと心機一転、個展など観て歩いて絵を  
盗むよう心がけなどしているのですけど、  
生来の怠け者と下手糞はどうにもならず、  
恐怖の搬入日近くなるともう自己嫌悪の毎  
日。いやらしい絵に徹底したいと思うけど  
これがさっぱりどうも。

# 私は今45回展にむけて

# 私は今45回展にむけて

# 私は今45回展にむけて

## 充実した45回展に

絵画（東京） 田中 忠雄

全道展も今年は四十五回展ですね、出発の頃のことを思い出して感無量です。あの頃一緒にいた友人の殆んどがもうあの世ですものね。後を引きうけて下さった方がよくやつて下さっていることに心から感謝申します。どうか四十五回展もより充実したものにして下さい。何もお手伝できませんがどうかよろしくお願ひ致します。やっぱり年ですね。余り旅行ができなくなりました

## 長い時間をかけて自分の世界を

絵画（音更） 岡沼 秀雄

時間が、すべてを解決してくれるなんて思つてはいないができれば信じたい。自分には生まれついての才能が無いといふことがよく理解できているつもりだし、技能を高めるための努力をした覚えも無いのだから「上手な絵」は絶対に描けるとは思つてもいい。結局、自分にやれるのは長い時間をかけながら、自分の世界を見てもらうことなど納得して描き続けてい

## 国吉康雄展をみて

絵画（札幌） 嵐 瑞子

去年の暮れ、目黒の庭園美術館で、国吉康雄の生誕百年記念展を観た。ニューヨークの憂愁というサブタイトルで、百七十点の展観である。晩年の極度に明かるく強烈な色彩の中に、作家の内面の思想を読みとることができた。庭園にはまだ紅葉が残つており歩きながら

ら絵を深く味わうとはこういうことだとしみじみ思った。

## 春一番に思う

絵画（札幌） 中橋 修

外は春一番が吹き荒れている。季節は移り変わる。世の中もいろいろ変わるが、とにかくならない速さで変わるものもある。何を変え、何をえずして守るべきか、その選択は重要だ。土台となるべきものを確実に押えていれば変化は恐れるに値しないのだろうが、土台の認識が一致しないところに問題がある。とにかく人それぞれなのだ。

## 時は流れ

絵画（札幌） 松島 正幸

満八十才になつた、身体が不自由になると健康の有難さがわかる。今年は、岩見沢市に私のささやかな、美術館が出来る。

生きてきた証明の貧しい足跡である。

時は流れる 人は死ぬ

## 四十年前と今

絵画（平取） 大友 一夫

戦後全道展が組織され、その迫力のある作品に魅せられ、私が初入選したのがたしか第六回展だった。それからもう四〇年近い歳月が流れ、今年は四十五回展を迎えるとしている。今でもあの当時の情熱的で迫力のある作品群がひしめいてる会場が昨

## 時は流れ：四十一回目の今年

絵画（苫小牧） 鈴木 善公

全道展が、今年四十五回を迎へるわけですが、私が全道展と縁を持ったのが五回展からです。何時の中にか今年は四十一回

## カーテンドラルをスケッチして

絵画（札幌） 谷内 丞

ここしばらく、地のエネルギーをテーマにしている。昨年、バルセロナでカーテンドラルをスケッチしたのだが、地面から盛り上がり空へ抜けていく、あの石塊の力はすごくなり空へ抜けていく。あの石塊の力はすごか

日のように想い出される。今の全道展にあ

の当時の迫力がどれだけ残っているだろうか。四十五回展を期して、更に飛躍するこ

とを希つている。

## 空・空・この中に

絵画（札幌） 長谷川忠男

永い間育くんだ平狩平野、その空は広く青く澄んでいた。

中国シルクロードのそのロードは、広漠たる自然そのもの、その空は想像を絶するものだった。

人間として最も大切なものがこのなかに潜み込んでいるような気がする。

## 沈黙

絵画（札幌） 夏山亞貴王

平成元年から、天安門事件で度肝を抜かれていたら、ドイツの壁が破られた。東欧の社会主義の自壊現象が始まつた。我々の思考よりも、諸外国の動向の方が先んじられている。こう言う時には言葉を失い、沈黙せざるを得ない。たつた百九〇文字で、「全道展の思いを書け」では何が書けますか。それこそ沈黙を強いられた原稿依頼でしかないと思う。句読点、括弧を付けたら一七〇文字。「何を笑うや、レーニン像です。」

## 自己実現に思う

絵画（深川） 渡辺 貞之

個性は、弱点にもなる。現代芸術は伝統への反抗であると言う人がいる。私は本当に新しい仕事とは古い仕事への反抗によるものでもなければ、新しい個性的自己主張によるものではないと思ふ。むしろ古いものに対しての否定は徹底的でしかないと思う。自己を実現する事も、自己を徹底的に批判されなければ、そこから出てくる個性は弱い

## あと数ヶ月で全道展

絵画（夕張） 土屋千鶴子

三十五回展で賞をいただきました。そしてあれから十年経過した四十五回展。この間、惜しい、優れた作家が亡くなりました。しかし全道展は今日もまた、初夏の爽やかな、真夏の熱氣あふれた多くの作品を集めた展覧会になるのだろうと思います。

あと数ヶ月で全道展がくると思うと身の引きしまる思いです。

私は今45回展にむけて

私は今45回展にむけて

## 自然美への模索

版画（白老） 大野 重夫

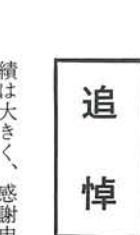
観察の不十分、感受性の欠如、技術力の不足、の全てであろうが、作品が思うようにできない。今年も又、自分の作品の前に立たうもないが、そのはづかしさを少しでも取り除こうと、…。自然のもつ様々な美しさを今年は視点を変えての表現をどうなることか模索中です。

## 追悼

の七氏が亡くなられました。

全道展に尽された功

績は大きく、感謝申し上げるとともに哀悼の意を表します。



この一年間に会員

①道標シリーズを作成して今後数年は続けて制作の計画です。その後は年末、持っている次の課題で発表の予定です。  
②50周年（半世紀）が目前にあります。良きものと信じていることが、知許を妨げて居るやも知れず、もつて破綻を許す許容力で作品をみたいものと考えます。

### 個展グループ展案内

- 戸次正義個展 3/22~4/4 南館西武5階美術画廊
- 連動展（二部作） 4/5~10 さいとうギャラリー全室
- 三人展（三箇、木村、瀬戸） 4/7~20 道立函館美術館
- 10人空間展（渡辺栄一、玉村拓也、渡会純介） 4/12~17 ギャラリーさいとう
- 在道独立作家展 4/16~2 時計台ギャラリー
- 六樹会19回春季展 4/21~22 森町公民館 市川洋一
- 岡田義巳個展 4/30~5/5 時計台ギャラリー
- 竹岡羊子個展 5/14~5/19 時計台ギャラリーA・B（C2F全室）
- 艾津詳子銅版画個展 5/19~7/22 荒井記念館（岩内）
- 杉吉篤個展 5/29~6/3 ギャラリーユリカ
- 箱根寿保近作展 5/30~6/5 南館五稜郭いしい画廊
- 高橋靖子個展 6/4~6/9 時計台ギャラリー（E F）室
- 高橋風景画展（ローマなど） 6/27~7/2 6日間
- 旭川国劇画廊A・B室
- 大友一夫油画展 7/14~15 平取町中央公民館
- 土屋千恵子展 7/16~21 時計台ギャラリー
- 大地康雄油絵個展 7/30~8/4 時計台ギャラリー3階
- 「現代の版画」1990 越谷賢一 8/7~9/16 渋谷区立松濤美術館
- 菅野充造個展 8/8~13 南館いしい画廊
- 尾崎志郎版画展 8月中旬 大同ギャラリー
- 押川清作陶展 8月 刈路さき画廊
- 佐々木悦子木版画展 9/3~8 時計台ギャラリー
- 藤井正・高志父子展 9/13~18 アートギャラリーさいとう
- 竹内豊個展 10/8~27 ギャラリー藍
- 第1回国画会北海道作家展 10/18~23 時計台ギャラリー
- 坂原チエ自選展 10/22~27 時計台ギャラリー
- 押川清作陶展 10月 札幌パークホテルギャラリー
- 坪野秀子個展 10/29~11/3 時計台ギャラリー
- 青木淳子個展 10/29~11/3 時計台ギャラリーA室
- グループ朔展（神田、岸本、木村、野本、伏木） 3/11~16 時計台ギャラリー
- 小川マリ同展 1991.3/19~24 東京セントラル絵画館

### ZENへの意見要望…&通信

バ  
・佐藤哲夫氏（絵画）平成元年4月13日没  
・佐藤アツ氏（工芸）4月21日没  
・本田明二氏（彫刻）4月22日没  
・鈴木伝氏（絵画）5月24日没  
・修三氏（絵画）5月21日没  
・正治氏（絵画）10月6日没  
・三郎氏（絵画）12月30日没

昨年十一月、北海道版画協会30周年記念展には多勢の会員の方が来場いたしました。厚く御礼を申上げます。  
尾崎志郎

前号で、東京の菅野充造さんが希望したこと、「講評に加えて、会員と出品者の座談会企画して下さい」というようにテークを広げた座談会は如何でしょうか?この意見に賛成です。これは、全道展の作家活動をもっと幅の広い、地についた内容の活動とするために必ず取あげてほしい課題です。そして語る人は常に新しいメンバーがあることが条件です。更に毎号拙説

いてさまざま角度から語ることが望ましい。  
嵐 瑞子

冬の戻りの寒さが身にしみる去る二月二十日の朝、原義行先生の奥様の御訃報

に接し大変驚きました。奥様はとても御優しい方で、御信仰深く色々御話になりまし

て、御哀福をお祈り申し上げます。清田操

平成2年より地区事務局（函館は小生より会員、高野政志氏に変りましたので今後ZENの函館地区関係の記事連絡はそちらの方にお願いします。

大地 康雄

### 住所・呼称変更

#### 新住所

- |       |                       |
|-------|-----------------------|
| 早坂 玲子 | 厚別区上野幌1条4丁目7の6        |
|       | TEL 011-895-2335      |
| 久保田 実 | 新冠郡新冠町北星町21-3         |
|       | TEL 0146-7-2134       |
| 玉村 拓也 | 札幌市西区八軒6条西1丁目4-10     |
|       | TEL 641-4217          |
| 石河真理子 | 千歳市東丘 824-30教員住宅9号    |
|       | TEL 01238-7-3076      |
| 鎌田俳捺子 | 札幌市厚別区もみじ台北3-8-6      |
| 池田 謙  | 函館市富岡2-59-8           |
| 矢元 政行 | 登別市富岸町2丁目14番1         |
|       | TEL 0143-86-2901      |
| 齊藤 洪人 | 札幌市厚別区大谷地東3丁目4-3-1505 |
| 長谷川忠男 | 札幌市西区西町南2丁目3-18       |
| 渡辺 重夫 | 札幌市厚別区もみじ台東6-2-14     |
| 大地 康雄 | 札幌市手稻区稲穂2条5丁目166-44   |

### これからの10年間に自分の世界

45回展を迎える。うち今回を含めて出品は41回になるが駄作の連続で恥じいるばかりです。せめてこれらの10年に自分の世界を表現したいものと思いを新たにし、その手始めにと三月の個展にむかって何かを発見したのと受験生よろしく制作中です。

部門・地名・氏名不詳

昨年11月、貧血の精査のため入院、大腸に大きな腫瘍があつて手術しました。手術そのものはうまくいったのですが、縫合不全ということで小さな穴が残り、これがふさがらずにまだ入院しています。

3ヶ月間も禁食がづいてつい最近、おもゆから3分がゆ程度食べられるようになりました。それでもどうやら抜けだせそうな見通しもつて少しほっとしたところです。健康第一皆様もご自愛ください。

### 仲間のたより=

昨日11月、貧血の精査のため入院、大腸に大きな腫瘍があつて手術しました。手術そのものはうまくいったのですが、縫合不全ということで小さな穴が残り、これがふさがらずにまだ入院しています。

3ヶ月間も禁食がづいてつい最近、おもゆから3分がゆ程度食べられるようになり、点滴はまだづいています。それにしてもどうやら抜けだせそうな見通しもつて少しほっとしたところです。健康第一皆様もご自愛ください。

室蘭 北浦 晃

### 企画展

#### 在社会友作品展

- 会場 大同ギャラリー
- 会期 6月4日(月)～9日(土)

#### 第45回全道展受賞者招待展

- 会場 大同ギャラリー
- 会期 10月8日(月)～10月13日(土)